

命の経験の第四段階へと入り、
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する

(金曜日——午前の第一の部)

メッセージ 4

命の経験の第四段階 (3)

命の中で王として支配する

聖書：ローマ 5:10, 17, 21. 16:20

- I. 神は人の創造において、二重の目的と願いを持っています。一方で、神は人が彼のかたちを所有して、人が神ご自身を表現することを願っています。もう一方で、神は人が彼の権威をもって彼を代行し、彼の敵を対処することを願っています——創 1:26：
- A. 人が進んで神のために生きさえすれば、神は彼らに権威を賜わうことを願います。それは、万物が彼らの統治権の下に服するためです——エペソ 1:22-23. ローマ 16:20。
- B. 初めから永遠に至るまで、神の一つの意図は、神が人を得て、人がこの宇宙で彼のために王として支配することです——参照、マタイ 5:3. 13:43. ローマ 14:17。
- C. 権威の面から見れば、王として支配することは神の救いの最終目標であり、わたしたちの霊的な経験の頂点です。もしどのクリスチャンでも神のために王として支配する程度にまだ到達していないなら、まだ標準に達していません—— 5:17, 21. 啓 2:26-27. 22:5。
- II. わたしたちは命の中で王として支配するビジョンを見る必要があります：
- A. 神の全体的な救いは二つの部分から成っています——ローマ 5:10：
1. 法理的な部分は、神の義にしたがっており、神の救いの手続きです。
 2. 有機的な部分は、キリストの命を通してであり、神の救いの目的です。
- B. 神の全体的な救いは、わたしたちがあふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物によって、命の中で王として支配することです—— 17, 21 節：
1. 義の賜物は、神の法理的な贖いのためです。恵みは、わたしたちが神の有機的な救いを経験するためです。
 2. 義の賜物は、神の法理的な贖いが実際にわたしたちに適用されることです。恵みは、わたしたちの有機的な救いのための、すべてに十分な供給としての神ご自身です。
 3. 命の中で王として支配することは、神の有機的な救いの満ち満ちた経験です。
- C. わたしたちは、神聖で、霊的で、天的で、王的で、王なる命をもって再生されています——マルコ 4:26. I ヨハネ 3:9：
1. この命はわたしたちを王として御座に着け、万物を、王として支配させます。
 2. この命の中で、わたしたちは今や王として支配することができます。
- D. ローマ第 5 章における命の中で王として支配することは、ローマ第 6 章から第 16 章におけるすべてのことのかぎです：
1. わたしたちはこの光の中で、第 6 章から第 16 章のすべてのことを見る必要があります。

2. 命の中で王として支配することは、第 6 章から第 16 章で解釈されています。そこで述べられているすべての事柄は、わたしたちの努力の結果ではなく、わたしたちがあふれるばかりの恵みを受けた結果です。
3. わたしたちは命の中で王として支配するなら、これらの章で提示されているすべての事柄の中にいます。

Ⅲ. わたしたちは命の中で王として支配する経験の中へと入る必要があります：

- A. 経験において、命の中で王として支配することは、神聖な命の統治の下にいることを意味します：
 1. キリストは御父の神聖な命の統治の下にいることによって、命の中で王として支配することの模範です——参照、マタイ 8:5-13。
 2. パウロは、彼の命と務めにおいて、神聖な命の統治の下にいた者の模範です——Ⅱコリント 2:12-14。
 3. あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受けたすべての信者は、神聖な命における拘束と制限を訓練する必要があります。
- B. 王として支配するとは、サタン、この世、罪、肉、自己、周囲のすべての環境に打ち勝ち、征服し、支配することです——ローマ 8:35, 37。
- C. 命の中で王として支配するとは、あらゆる種類の不服従を征服することです——5:17-18, 21. 8:2：
 1. 王として支配する霊は、強く活発で、主導的であって受け身的でなく、積極的であって消極的でなく、勤勉であって怠惰ではありません。
 2. そのような霊を持っている人は、神の順序の地位を守り、神の権威に服するだけでなく、強い信仰を持ち、絶えず昇天の地位にあって神の権威を行使します。
 3. このようにして彼は、自分の環境、自分の働き、召会におけるすべての集会と諸事を王として支配し、統治します。
- D. わたしたちは神聖な命の統治の下にいることによって命の中で王として支配するとき、暗やみの権威から救い出されます——コロサイ 1:13 前半。
- E. わたしたちは神聖な命の統治の下にいるとき、神の愛する御子の王国の中で生き、愛の甘さの中で支配され、拘束されます——13 節後半。
- F. 命の中で王として支配するとは、わたしたちの心が主によって導かれることです——箴 21:1. Ⅱテサロニケ 3:5。
- G. わたしたちは命の中で王として支配するために、あふれるばかりの恵みを受ける必要があります——ローマ 5:17, 21：
 1. 主を恵みとして享受することは、彼を愛する者と共にあります——エペソ 6:24. ヨハネ 21:15-17。
 2. わたしたちの人の霊を訓練することを通して、わたしたちは主イエス・キリストの恵みを、三一の神の満ちあふれる供給として享受します——ヘブル 10:29 後半. ガラテヤ 6:18. ピリピ 4:23. ピレモン 25 節. Ⅱテモテ 4:22。
 3. 神の言葉は恵みの言葉です——使徒 20:32. コロサイ 3:16. 参照、エレミヤ 15:16。
 4. わたしたちは聖徒たちと一の上で集会するとき、手順を経た三一の神を命の恵みとして経験します——詩 133:3. I ペテロ 3:7. 使徒 4:33. 11:23。

5. わたしたちは苦難と試練の中で、主を増し加わる、すべてに十分な恵みとして経験することができます——Ⅱコリント 12:9。
 6. わたしたちは主の恵みの力の中で、主のために労苦する必要があります——Ⅰコリント 15:10, 58. 3:10, 12 前半。
 7. わたしたちは神のさまざまな恵みの良い家令となる必要があります——Ⅰペテロ 4:10. エペソ 3:2. Ⅱコリント 1:15. エペソ 4:29。
 8. わたしたちは、恵みの力、恵みの強さ、恵みの命によって、神に対して、また互いに対して正しくなることができます。恵みは義を生み出します——ヘブル 11:7. ローマ 5:17, 21。
- H. わたしたちは神のように命の中で王として支配するので、神格においてではなく、命と性質において神となります——17 節。
- I. わたしたちは接ぎ木された命を生きることにおいて、命の中で王として支配します——11:17-24. ガラテヤ 2:20 前半。

IV. わたしたちは命の中で王として支配することの目標を見て、それに到達する必要があります：

- A. 神のみこころはからだの生活を持つことです——ローマ 12:2。
- B. わたしたちが命の中で王として支配し、神聖な命の統治の下で生きているとき、その結果は真の実際的なからだの生活です。
- C. わたしたちは、からだの生活が建造されて、実行上の実際となることを見るために、命の中で王として支配しなければなりません。すなわち、神聖な命の統治の下にいないければなりません。
- D. ローマ第 12 章から第 13 章におけるからだの生活をするための各項目は、わたしたちが神聖な命によって統治されることを必要とします：
 1. 神の慈しみによって捕らえられる——12:1 前半。
 2. わたしたちの体を生きた犠牲としてささげる——1 節後半。
 3. この時代にかたどられない——2 節前半。
 4. 思いが新しくされることによって造り変えられる——2 節後半。
 5. 自分自身について思うべきことを超えて思い上がらない——3 節前半。
 6. 神がそれぞれに割り当てられた信仰の度量にしたがって、冷静な思いで思う——3 節後半。
 7. 一つの体の中には多くの肢体があり、そしてすべての肢体が同じ機能を持っていないことを考える——4 節。
- E. わたしたちはただ命の中で王として支配することによってのみ、からだの生活のために最高の美德の生活を生きることができます：
 1. 偽りなく愛し、兄弟愛の中で温かく愛し合う——9 節前半, 10 節前半。
 2. 熱心で怠けることなく、霊の中で燃え、主に仕える——11 節。
 3. 患難の中で耐え忍ぶ——12 節後半。
 4. 喜ぶ人たちと共に喜び、泣く人たちと共に泣く——15 節。
 5. わたしたちはできる限り、すべての人と平和に生活する——18 節。
- F. からだの生活は召会生活の中で表現されます：

1. わたしたちは命の中で王として支配して、召会生活をしなければなりません：
 - a. わたしたちは命の中で王として支配する下で、神の受け入れることにしたがって信者たちを受け入れます—— 14:1-23。
 - b. わたしたちは、キリストがわたしたちを受け入れる方法にしたがって、互いに受け入れるべきです—— 15:1-13。
 - c. 神聖な命の統治の下で生きることによってのみ、命の中で王として支配することによってのみ、わたしたちは正当な召会生活をすることができます。
2. 召会は警察署や法廷ではなく、家、病院、学校です。

V. わたしたちは命の中で王として支配することの究極的完成を見る必要があります：

- A. 命の中で王として支配することは、「永遠の命に至」ります——ローマ 5:21：
 1. 「永遠の命に至る」は特別な表現です。
 2. ヨハネ第 4 章 14 節後半は言います、「わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」：
 - a. 「へと至る」（ローマ第 5 章 21 節の「に至る」）は目的地について語っています。
 - b. 永遠の命は、流れる三一の神の目的地です。
 - c. 「へと至る」はまた、「となる」を意味します。
 - d. 永遠の命は最終的に新エルサレムとなります。
 - e. 「永遠の命へと至る」は、「新エルサレムへと至る」を意味します。
- B. 新エルサレムは神聖な命の総合計、神の命の総合計です。ですから、わたしたちが命の中で王として支配する結果、また究極的完成は、唯一、また究極的に、神の永遠のエコノミーの目標、すなわち新エルサレムであるべきです。

務めからの抜粋：

神は、信者たちに命を持たせて、命の中で王として支配させる

神は信者たちに命を持たせるだけでなく、命の中で王として支配させます。ローマ人への手紙第 5 章 17 節前半は言います、「もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら……」。死はわたしたちの中で王として支配します。この王は意図的にわたしたちを死に渡します。アダムの違反のゆえに、彼の子孫としてのわたしたちの中には王がいて、わたしたちを制御し、わたしたちの中で王として支配しています。17 節後半は言います、「あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します」。義認は賜物であり（16 節）、恵みはあふれます。このあふれる恵みから賜物が生じます。この賜物が義です。義を受け継いだわたしたちは、一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。前の王は死でした。後の王は恵みを受けて義とされた者です。

しかし、わたしたちは王として支配することができるのでしょうか？ 死は王として支配するようさらに資格づけられています。王であるわたしたちは、どのように王になるのかわかりません。わたしたちは、三歳の時に清王朝の最後の皇帝となった薄儀のようです。彼は王でしたが、どのように王になるのかわかりませんでした。彼は王となるように助ける保護者を必要としました。救われて義とされているわたしたちは確かに王ですが、どのように王になるのかわかりません。ですから、わたしたちはわたしたちの中に命を置いた

方、イエス・キリストを通して、王となることができます。一方で、それはこの方を通してです。もう一方で、それは命の中で王として支配することを通してです。

あなたがたは聖書をこのように学ばなければなりません。ローマ人への手紙第 5 章 17 節で、二人の王とはだれかを見いだしてください。第一の王の名は死です。第二の王の名はあなたの名です。今日わたしたちはみな王です！ わたしたちが王であるのは、わたしたちが救われ、義とされているからです。わたしたちは救われているだけでなく、また大いなる賜物、義の賜物を受けています。わたしたちが受けている恵みは少しの恵みではなく、あふれるばかりの恵みです。それは、あふれるばかりの大洋のようです。それは二口で飲み干してしまうお茶のようなものではありません。恵みは大洋のようです。この際限のない恵みにあって、神はわたしたちに賜物、すなわちあふれるばかりの義を与えられました。義とは、神がキリストの中でご自身をわたしたちに与えることです。さらに、神はわたしたちが王として支配することを願っておられます。神はわたしたちを助けて一人の人、イエス・キリストを通して、神の命をもって、命の中で王として支配させることを願っておられるのです。

あなたがたはすべての村に行くとき、このように人々を教えるべきです。あまりに多くのことを扱おうとしてはなりません。この十のアウトラインを四か月から六か月で教えるなら、とてもうまくいくでしょう。これは彼らの視野を広げ、彼らに救いと聖書に関する理解を与えます。彼らはまた多くの霊的な用語を学ぶことができます。これはすべて、あなたがたがこれらの事柄をはっきりと正確に語ることにかかっています。

罪の不服従、死、罪と死に属するすべての消極的な事柄を征服する

アルコール、ギャンブル、劇場に行くなどのあらゆる種類の中毒は、罪から来ます。さらに、あらゆる種類の中毒は反逆です。人はアヘンの中毒になるとき、アヘンなしに生きることはできません。アヘンを吸うことは反逆のものになります。人が短気を起こすのも反逆のもの、罪に関するものです。子供が従うことを拒み、言うことを聞かないとき、わたしたちはそのような者を反逆と言います。人の墮落した状態によれば、彼の性質は反逆的です。人は骨の髄まで、髪の毛の一本まで反逆的です。この反逆が不服従をもたらすのです。

罪は王として支配して死に至り、

死は罪人を通して王として支配して、彼にすべての権利を失わせる

罪は王として支配して死に至り、死は罪人を通して王として支配します。例えば、夫婦が言い争うとき、男は男の王となり、女は女の王となります。彼らは声、目、まつげにおいて王となっているだけでなく、体のあらゆる毛でさえ王となります。全家族は反逆的な王たちの集団となります。議論が終わるころ、彼らはこれ以上、生活したくなくなります。これはすべて、罪と死が王として支配して、罪人にすべての権利を失わせるゆえです。

恵みは義を通して王として支配して永遠の命に至り、

永遠の命はイエス・キリストを通して信者たちに王として支配させる

わたしたちはみな、恵みが甘いことを知っています。しかし、恵みには権威はありません

ん。ですから、恵みは義を通して王として支配します。神はわたしたちに恵みを与え、また義を与られます。今日わたしたちは恵みと義の両方を持っています。恵みは義を通して、すなわち、神ご自身を通して王として支配します。その結果は、人が永遠の命を得るということです。この永遠の命は信者たちに、イエス・キリストを通して王として支配させます。ローマ人への手紙第 5 章 21 節は言います、「恵みもまた義を通して王として支配し、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に至るためです」。最後に、わたしたち信者はイエス・キリストを通して、この永遠の命の中で王として支配します。

神の王職をもたらす

結婚した兄弟と姉妹がぶつかり、互いに議論しようとするとき、自分たちはイエス・キリストを通して王として支配していると宣言しなければなりません。自分たちはもはや議論しないと宣言しなければなりません。これは神の王職をもたらします。家族の中で、両親が絶えず議論しているなら、子供たちは不従順になり、家族全体は反逆の状態にあるでしょう。この家族は恵みと、神の祝福に対する権利を失うでしょう。家族についてそうであるなら、召会についてもそうです。わたしたちは議論を軽い事柄と考えるべきではありません。議論は反逆です。正しい理由のある議論は反逆です。正しい理由のない議論も反逆です。それでは従順とは何でしょうか？ 従順とは、議論しないで黙っていることです。わたしが頭の権威に服従するので、わたしの髪、舌、唇、歯はすべてわたしに服従します。それらはもはや議論しないで、わたしは王として支配します。これは神の王職をもたらし、拡大して神の王国となります。

拡大して神の王国となり、

それは神の王国の種としてのキリストの増し加わりである

わたしたちが命の中で王として支配する結果としてもたらされる王職は、わたしたちの命の中のキリストの拡大です。キリストは命としてわたしたちの中におられます。あなたの仲間や配偶者が議論しているとき、あなたが同じことを行なうことをしないなら、あなたはキリストに内側で王として支配していただいております、彼はあなたの内側で拡大しておられます。

マルコによる福音書第 4 章とマタイによる福音書第 13 章によれば、神の王国とは命の種として信者たちの中へとまかれた主イエスです。この種は発展して、神の王国である領域となるに至ります。この王国は拡大して時代の終わりに至ります。異邦人の支配の終わりに、ダニエル書第 2 章で大きな像について記述された状況があるでしょう。人手によらずに切り出された石は主イエスです (34 節)。彼は天から下って来て、像を打ち、それをもみ殻のように砕きます (35 節)。その石は大きな山となって全地を満たします (2:31-35)。大きな山は石の拡大です。

わたしたちはみな、主イエスがすぐに戻って来られることを望んでいます。しかしわたしたちは、彼にわたしたちの中で彼の王職を拡大していただく必要があります。彼が信者たちの中で拡大すればするほど、彼はますます早く戻られます。彼がすぐに戻って来られるかどうかは、わたしたちの中で彼を拡大させているかどうかにかかっています。これが神の王国です。(ローマ人への手紙における命の中の救い、第 7 章)

命の経験の第四段階へと入り、
完全に成長した人に到達して神の定められた御旨を完成する